特41
756
255
153

特41
756

梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治
41 7 29
内交

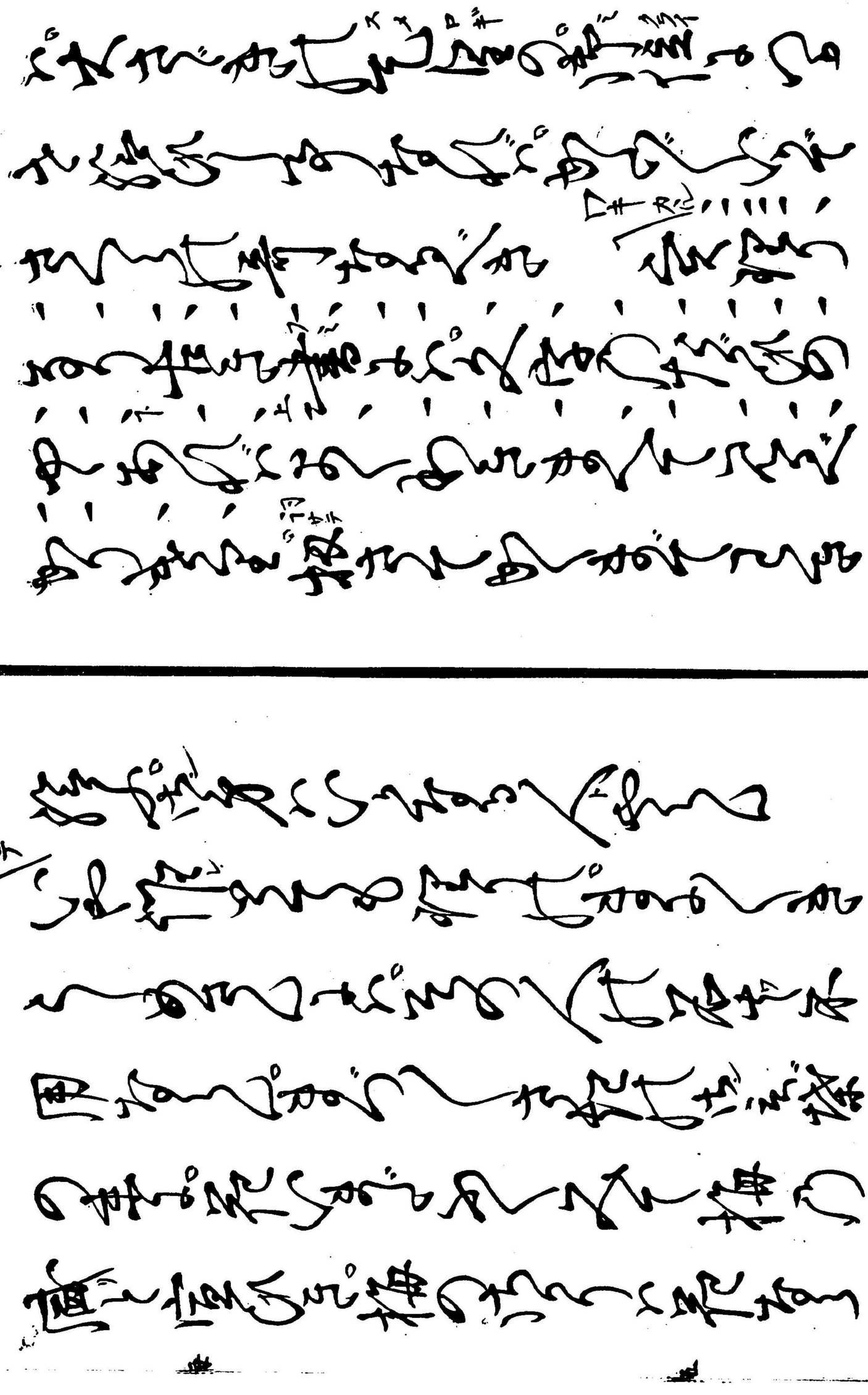
ふび衣。　日新
めしたへべたらる帷や閑たの
宿も君のみるすてぞさぬ代
い行きめの人ぞくぎよ
ゆきもや　らら行宮ぞ
年れまの城ぞもつもあくたづ

ーイコト、ーふう上京、ー
志づなどれ振ごろ　宮の
君城のなどは　ら　風も音
せでよる浪のびきいちまぐ
て京新波の　海ら　る
れ氣色と冷ぞ　ら
面白や那波の海まつ

里に花咲白(キ)くなれ(ラナ)ども
ちりぬる(アラ)ぬ海原(ウナバラ)に白波のやへ
とるとよりのみ舟行ものさまい
古への家持(ヤカモチ)の卿(キヤウ)偽めなれ
出られて。(ト二一甲一一一

あるや公家なる　もてなして
ぞ　しらしらさなるめれど　ぞ　奇
家持の卿いまだ　兵部補
しるき　ぞ　ぞ　めて　ぞ　まを
狂　二月の十　三月　信
て　三月の三　ぞ　ぞ　花の

三月　イトハ　散るは　都へ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
行　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
て　今　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
梅の花　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ



ぎや　まらくみ長も保りなり。
何の花ともそれのくまてゝ花と
のみよめどこそ花とぞなるべく
いかさくらのくぞ花といかな
るぬらるれ。いそで長位もそ
海　濱の吉野ぬるも寄

の言葉の数にて、人の心を捨て
して。俗出るなるもくるよ
もつきでなる去なるくわ
まの。安き和代の作べそ。
まくきでさ俗乃道。直るれ
ざるそ鬼和ともなるくも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年寄

清の夜の月待ごとの花さくべ。

[illegible]

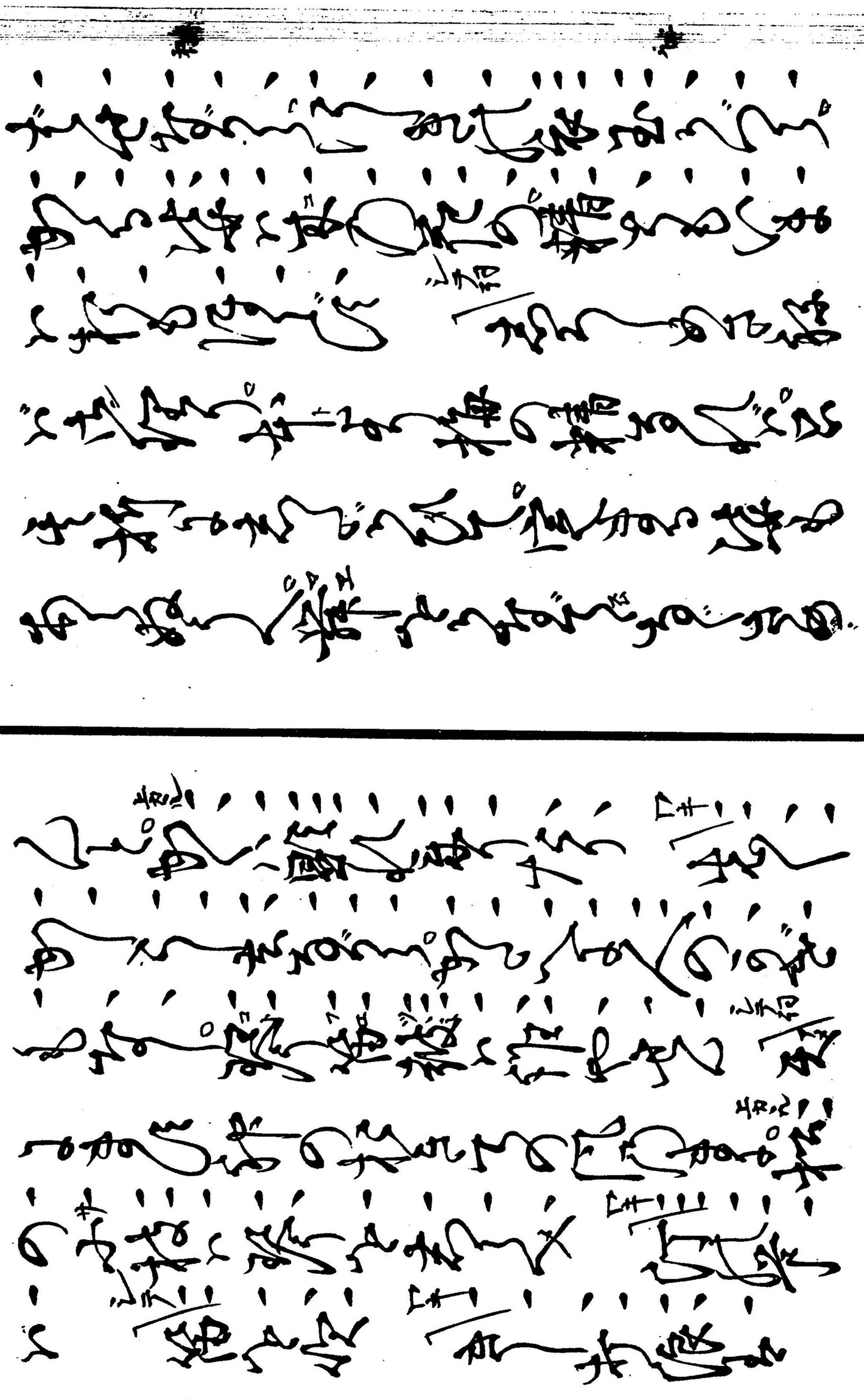
[illegible]

梅の家佐ろ郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

と、なるなり。そもそも神事は、中ごろ、
はなはだ、宮べの。まるもの、
いとまなく、ぞくする。
ぶ仏の作法、ならびに梅の木、
天皇の大儀の時、場もの梅の

食べ等が。梅のぶきをちぎ
つ。塗の蓋に。ならべ。
ぶ。ちきとよまて。
ぶて。祈代のつべなり。
書の。七月に。辞の書
ぶ。梅と。梅と。

たて糸綿花は古へよりもてきや
すもひ花は常しへよりあ
りて作りそめはきん。
又毎年はたは常よりぶ
海の人等も昔は革のて
ろぎを巾の花はまと頭巾の

以
よりへ主紙形の天の月蓋は
漫番黒酒白酒の神酒なり
年代万代もぎ蓋とひ
年を祝ひていざやうな
ぢん
月もわてる郷の酒
ワカ二ツ二、元又一一
賞の者しものどくさ風よ

上地

梅の匂ひや天満宮
らん天満宮
孤松のうしろ
孫ぞ孫ぞ
ぞして花嫁
民も老でゆ

上三冬

元

のそ
何行
びく日
烏帽
も秋君が代の

一ゝ二ゝ二ゝ二ゝ二ゝ
一ゝ二ゝ二ゝ二ゝ二ゝ
一ゝ二ゝ二ゝ二ゝ二ゝ